



置戸の水源「三の沢」

良好な天然林が水がめ



水源地三の沢川

帰省した学生など「やはり置戸の水はうまい」と喜んで飲むのが、三の沢を水源地とする置戸の簡易水道。置戸で最初の簡易水道の水源を緑川に求めたが、汚濁等から昭和59年に農林水産省林業試験場北海道支場に調査を委託して、三の沢と決定し、1億7千万円を費やして取水地を移設しました。三の沢環境調査報告書には「三の沢を形成する国有林89林班、90林班、道有林14林班は、針広混交林で林地面積約900ヘクタールの地味、生育とも極めて良好な天然地帯で、良質の水道水源として活用する場合には、流域の草地化は調査結果からも絶対さけるべき。たとえ択伐であっても機械造材は避け環境に配慮すること」と書かれている。

平成7年、置戸営林署長から町長に「来年度90林班において、約23パーセント択伐方式で伐採したい」と申し出があった。調査報告書のこともあり、町長は即答を避けて、議員協議会に諮った結果、「伐採すると、おそらく汚水が出る。択伐といっても伐採跡地は皆伐に等しい状態になり、水

が枯れる恐れもあるので、現地を見てから伐採したら水源地はダメになると申し入れる。実際に現地を見ないで判断してはだめ」という、元営林署職員であった高田俊雄議員等の強い主張で、現地視察を行なった。国有林は洞爺丸台風で大量の風倒木があり、処理のため多くの職員を採用しました。その後安い輸入原木の大量入荷で林野会計は年々赤字会計が増嵩するなか、直営生産事業を維持していくのが困難を極めていました。こうしたこともあって天然林所在地としては置戸で屈指の90林班に「枯損木があり山の活性化を図る必要があるので、沢沿いの一定区域を除いて択伐したい」と申し入れしてきたもの。現地調査後の協議会では、全員伐採については「反対」で一致し申し入れました。良質で豊かな水が置戸市街地区や境野住民に供給されているのは、近年では稀にみる良好な天然林が、水がめとして存在しているからです。

(参照『続置戸町史』 ※文中人名敬称略)

新たに置戸町に
来た方を紹介する

みなさんこんにちは



ひろ かわ こう いち
廣川 孝一 さん

一般社団法人おけと
森林文化振興協会
専務理事

【出身は】北見市
【以前は】北見市内の会
社で総務と経理を担当

【ご家族は】北見市に妻、独立した子供が4人
【なぜこの仕事に】今までの仕事の経験を生かし、オケクラフトの運営に携わりたいと思いました。
【置戸の印象】昔、大叔母がいた頃よく来ました
【皆さんへ一言】オケクラフトのさらなる発展のため微力ながら頑張ります。宜しくお願いします。



あま の てる ひさ
天野 照央 さん

役場町づくり企画課
企画係主事補

【出身は】北見市留辺蘂
町生まれで、札幌の専門
学校を卒業

【ご家族は】両親と弟

【特技は】卓球を小学校から高校まで続けました
【なぜこの仕事に】父の友人が秋田地区にあり、何度も遊びに来ていたので、身近なこの町で町民の皆さんの力になれたらと思いました。
【皆さんへ一言】防災の担当をしています。万が一に備え、皆さんのお役に立てるよう頑張ります。